

に描いていました。

前日、先生はのちの昭和天皇となる皇太子こうたいしが乗る列車を奉迎ほうげいするために、中なか川原がわはらと呼ばれるこの付近に來ました。その時、さつき先生は二段、三段と遠近に眺められる風景に魅みせられ、ぜひ教材に取り入れたいと考えました。

その日は大変暑く、照りつける日ざしの強い昼下がりでした。教え子の一人である我妻伝蔵あがつまでんぞうも「あの日はすごく暑かった」と回想しています。四十分くらいで絵を描き、そろそろできあがったころ、一部の男子生徒が、「先生、どうか水遊びをさせてください」とせがんでなりませんでした。

遊び盛りの子どもたちに何回も言われると、先生はかわいそうに思い、「それじゃ、着物を脱がずに浅いところで足だけ浸ひたして遊びなさい」と、許さざるを得ませんでした。とにかく元気いっばいの五六名の児童でしたから……。そして、一人ひとりをしつかり見守っていられる訳にはいきません。

そのうち、妙な気配が起きました。数名の男子生徒が深みにはまり、溺おぼれているのです。向こう岸にあった小舟を見て、それに乗ろうと思い、渡れそう